

2016年度 清瀬青年会議所
副理事長運営方針



副理事長 堀田 和宏

入会6年目を迎えた本年度は、副理事長を拝命することとなりました。これまで多くの先輩方のご卒業を見送ってきましたが、いつしか私も理事メンバーのなかで在籍年数が長い1人ということになりました。副理事長という役職は、他のメンバーに対して、指導的役割を果たすことが求められるポジションとなります。そこで、本年は、私がこれまで青年会議所での活動を通じて得た経験や知識を他のメンバーに伝えていくことを心がけ、後に続く人を育てたいと考えております。

副理事長としては、まちづくり、そして卒業式という式典といった多様な任務を担う「まちづくり委員会」を担当することになります。当LOMの現状を受けて構成人員が十全ではない一方で、この「まちづくり委員会」の果たすべき役割は重要なものです。こうした状況において委員会を運営するにあたっては、まずは現状を正しく認識し、なすべきこととそれを成し遂げるための方法を正しく策定し、そのうえで各自が最善を尽くすことが求められますところ、それは本年度のスローガンの要請するところでもあると考えます。

本年度のスローガン「倦まず弛まず」とは、会員数の減少に伴い、活動におけるひとりひとりの会員の負担が増している清瀬青年会議所において、メンバー各自に求められているものを端的に示したものと理解されます。青年会議所の活動は、議論と検討を重ね、周到な準備をすることが必要であるということから、青年経済人として多忙な日々を送るメンバーに対して、青年会議所のために大きな労力と多大な時間を費やすことを要求するものです。そのため、十分とはいえない人数で青年会議所が活動を持続するためには、メンバー全員が、それぞれがなすべきことを投げ出さず、飽きることなく、気を緩めることなく、地道な積み重ねを続けるほかありません。

また、会員減少の続く清瀬青年会議所ではありますが、それに屈することなくメンバーがひたむきに活動を続けることで、その姿と志に感銘を受けた新たな仲間の参加が期待されます。さらに、かかる困難を乗り越えたメンバー間の結束はよりいっそう強固なものとなると思われます。こうした組織の充実が清瀬青年会議所の未来への礎となることに疑いはありません。

最後になりますが、35年にわたる歴史を持つ清瀬青年会議所において、副理事長という大任を担わせていただくことを大変光栄に存じております。私は青年会議所においては学ぶべきことが多々ある身ではありますが、自身の職分を果たし、青年会議所に貢献をして参りたく存じます。1年間、どうぞよろしくお願い申し上げます。